

シンポジウム

企画に当たって

教育学研究科芸術系教育
大泉 義一

折しも台風が関東地方を直撃し、次々に警報が発令される中での第4回教育デザインフォーラムの開催となった。来年度からの新教育学研究科においては、教育インターンをはじめとした附属学校とのより緊密な連携が不可欠となる。そこで第1部では、附属学校のうち、とりわけ小学校にスポットをあて、今後求められるその役割について考え合うシンポジウムが設定された。本稿では、本シンポジウムの概要と意義、そして明らかになった事項について包括的に報告する。

・テーマ

『附属小学校の新しい役割』

・研究報告

附属鎌倉小学校教諭 赤坂桂氏

附属横浜小学校副校長 鎌田健二郎氏

横浜市立西寺尾第二小学校校長 南雲盛二氏

・コメント

教育デザインセンター教授 高木展郎氏

家政教育講座教授 堀内かおる氏

・司会

美術教育講座准教授 大泉義一

シンポジウムの骨格は、上記報告者による附属小学校、公立小学校からの報告、それを受けた大学からのコメント、さらに以上をふまえたフロアーを含めての協議というものである。

まず、本シンポジウムは〈附属学校—公立学校—大学〉を結ぶ〈場〉として重要な意義をもつことを確認しておく。すなわち、これまで教育実習をはじめとする業務運営上の連絡に終始してきた三者の関係を、共通の目標である「教師教育のあり方」を考え合う関係へとシフトした〈場〉なのである。繰り返すが、本学は学部、大学院を一貫した教員養成にかんする改革を実施した。その改革には、附属学校、地域の公立学校とのより密接な連携をも含んでおり、そもそも教育デザイン研究会の発足もその一環である。そうした中で、

三者が目指す地点は果たして共有できているのか、それを実現するための内容は用意できるのか、そしてその内容は三者が手を携える中でどのように扱われるべきなのか。三者の連携にかかわるこれら目標論、内容論、方法論について議論を重ねていく営みは、本シンポジウムが契機となり、以降、日常的、継続的に行われていくべきであろう。

次に、テーマである『役割』に関して明らかになった事項を述べる。これまでどちらかと言うと、附属小学校の役割は、その時代の教育課題に対応する先進的教育実践を提唱していくことにあり、したがってその位置付けは「全国区的」という抽象的なものになりがちであったように見える。しかしながら本シンポジウムで見えてきた附属小学校の役割とは、大学・地域・公立学校との連携拠点としてのそれである。ここにおいて附属小学校の位置付けは、「発表・伝達の間」から「ともに学ぶ場」へと変容することとなる。さらにその場においては、附属小学校教員、大学教員、公立学校教員、地域の人々、専門家、学生、そして子どもたちがそれぞれの立場で学び合うことが志向される。つまり、『新しい役割』とは、附属小学校・公立学校(地域)・大学それぞれの「命題」を核にしながらもつながっていくような「協働」的連携を生み出す“HUB的”役割なのである。

